総会報告

第 8 回定時総会報告

日　　時：平成 30 年 3 月 23 日(金) 13 時 00 分～ 14 時 30 分
会　　場：全水道会館（東京都文京区本郷 1-4-1）
出席代議員数：53 名（内委任状 43 名）
（代議員数総数：57 名，総会成立の定数 29 名以上）
議　　案：
（1） 平成 29 年度事業報告 【第 1 号議案】
（2） 平成 29 年度決算報告 【第 2 号議案】
（3） 平成 30 年度事業計画 【報告資料 1】
（4） 平成 30 年度予算計画 【報告資料 2】
（5） 平成 30 年度役員の件 【第 3 号議案】
（6） 名誉会員推挙の件 【第 4 号議案】
議　　事：

午後 1 時 00 分，定款第 15 号に基づき澤 俊裕会長が議長となり，出席者が定款 17 条に定める定足数に達しているとの旨報告の上，第 8 回定時総会の開会を宣した．

次いで，以下の各議案について提案および詳細な説明があり，逐次審議を行った結果，いずれも原案どおり異議なく可決された．

各議案の内容は以下のとおり．

【第 1 号議案】

平成 29 年度　事業報告
（自　平成 29 年 1 月 1 日　至　平成 29 年 12 月 31 日）

Ⅰ．シンポジウム（継続事業 1）［担当：事業理事／学術講演会理事］

1．ロボット教育セミナー（オーガナイザー：青木悠祐（沼津工業高等専門学校））

（1） ロボット教育セミナー「からくり工作教室」in 横浜
開催日：2017 年 8 月 19 日(土)
開催地：三菱みなとみらい技術館
対　象：小学生　参加無料
講　師：佐々木三郎氏，榎本誠治氏（日本メカニズムアーツ研究会）
内　容：からくり人形の実演を交えた解説，参加者によるからくりロボットの製作
参加者：40 名

（2） ロボット教育セミナー「からくり工作教室」in 沼津
共　催：ロボカップジュニア静岡ブロック
開催日：2017 年 8 月 27 日(日)
開催地：沼津工業高等専門学校
対　象：小学生　参加無料
内　容：沼津工業高等専門学校内にある様々なロボットを見学，参加者によるからくりロボットの製作
参加者：20 名

2．インターナショナルロボットハイスクール 2017（IRH2017）
期　日：2017 年 12 月 2 日（土），3 日（日）（国際ロボット展 2017 会期内）
会　場：東京ビッグサイト会議棟 7 階 703 会議室
内　容：国内外の高校生を対象に，ロボットの基礎・研究に関する講義を聴いてもらい，国際ロボット展 2017 の展示の調査・研究を通じて，最前線の技術に触れてもらうとともに，その研究成果を発表してもらった．
参加者数：13 校，129 名(国内 6 校，36 名，国外：7 校，93 名)

3．国際ロボット展 2017（iREX2017）ブース出展
期　日：2017 年 11 月 29 日(水)～ 12 月 2 日(土)
会　場：東京ビッグサイト
内　容：国際ロボット展 2017（iREX2017）にブース出展を行い，日本ロボット学会の活動紹介を行った．
来客数：250 名

4．学術講演会
オープンフォーラム（市民向けを含む一般公開企画 聴講無料）を 13 セッション開催した．
・ロボットシミュレータ Choreonoid 講習会
・在宅での介護や施設を選ぶ時代に ～だれもが笑顔で過ごせるより良いケアとは～
・2020 年 World Robot Summit は何を競うのか？
・パネル討論「ロボット事業における中小企業産学連携の在り方 3」
・学会はどんな調査・研究をしているの？ ～研究専門委員会の活動を紹介します～
・廃炉に向けた日本原子力学会との連携と課題 3
・アクティブ・ラーニング，PBL を実現するロボット教材
・学術講演会参加学生向けランチセッション
・このロボットがすごい 2017
・我が企業のロボット ～ロボット関連企業の取り組み～
・学生と企業のための交流サロン
・RSNP を利用したロボットサービスコンテスト 2017 ～応募作品発表と審査，審査結果発表～
・学術論文の査読の作法と，それを知ることでわかる論文の書き方 ～投稿論文掲載までの道～

Ⅱ．学会誌（継続事業 2）［担当：学会誌理事］（定款第 4 条 2 号）

学会誌第 35 巻 1 号～ 10 号を発行し，会員に配布した．各号の特集テーマは次のとおりである．

第 35 巻 1 号　マニピュレーションの最新動向
第 35 巻 2 号　IoT とロボティクス
第 35 巻 3 号　人工知能とロボティクス
第 35 巻 4 号　ROS：Robot Operating System
第 35 巻 5 号　スマート農業技術の最前線
第 35 巻 6 号　スワームロボティクスと昆虫生態科学
第 35 巻 7 号　身体性システム科学
第 35 巻 8 号　高速ビジョンと社会実装
第 35 巻 9 号　ロボットのためのセンシング技術 ―視覚・力覚―
第 35 巻 10 号　タフ・ロボティクス

今年度も，マニピュレーション，センシングなどの基礎的な分野から，IoT，人工知能，ロボット開発プラットフォーム，身体性システムなど近年話題になっている内容，更には農業や災害対応ロボットなどの応用分野まで，多方面にわたり魅力的な企画を会員に提供できた．最初の 1 号ではロボットの基本である物体を操作するマニピュレーションについて，現在残されている課題や新しい取り組みについて特集し，非常に堅実な内容でスタートした．次の 2 号では IoT，3 号では人工知能と最新の話題を集中的に取り扱い，ロボット分野の読者の関心が高いであろうキャッチーな内容を連続して取り扱ったことが特徴として挙げられる．また，ロボットのソフトウェア開発プラットフォームである ROS を取り上げるなど，理論的な内容だけではなく実装面についても精力的に取り扱った．その他，農業，スワームロボティクス，身体性システム科学，高速ビジョン，センシング，災害対応ロボットなど多岐にわたる内容を織り交ぜ，理論と実践，流行りの内容と堅実な内容，新しい分野と古くから研究が続けられている分野をバランス良く取り扱っていることも特徴である．

年間の論文投稿件数は 44 件（前年度 76 件），判定結果は採録可 45%（前年度 52%）であった．判定までの期間は平均 150 日，最短 64 日，

最長 230 日で，掲載までの期間は平均 321 日（前年度 338 日）であった．なお，評価点項目別の採択率は，新規性 11%，有用性 67%，提案性 22% となっている．

一般記事に関しては，日本ロボット学会が共同主催している IROS（IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems）をはじめとしたロボティクス関連の学会への参加報告に加えて，ロボット工学セミナーの概要を記した実施報告を新たに掲載することとした．また，昨年の学術講演会で実施した「論文の通し方，教えます ～ロボット学会誌論文掲載までの道～」の続きとして，今年の学術講演会では「学術論文の査読の作法と，それを知ることでわかる論文の書き方 ～投稿論文掲載までの道～」を 1.5 時間にわたり実施した．多数のご提案とご意見をいただき，非常に有益なオープンフォーラムになった．

広告の年度集計結果に関しては，学術講演会での展示企業などへの広告勧誘活動などを実施したが，件数は一昨年度 59 件，昨年度 56 件から，今年度 48 件と減少している．金額は 4,126,680 円であり，年度目標金額 400 万円に対して約 100% となり，目標を達成した．金額ベースでは昨年（金額 3,841,560 円）から微増している．これまでの勧誘活動だけでなく，掲載広告のコンプライアンスチェック体制を強化しつつ，特集号と連動した広告プランなど，新たな模索を検討し続けると同時に，広告出稿と論文投稿のインセンティブを連動させるなど，を含めた施策を打っていく予定である．

Ⅲ．欧文誌（継続事業 3）［担当：欧文誌理事］（定款第 4 条 2 号）

2017 年より，Editor in Chief が新井史人教授（名古屋大学）から，細田耕教授（大阪大学）へと引き継がれ，Advanced Robotics の安定した発展を維持させつつ，時流に即した新しい取り組みを行っていく予定である．

1．欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

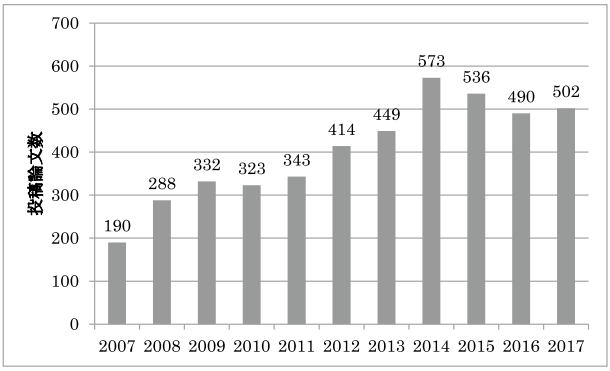
Vol. 31 を発行した．各号の詳細は以下のとおりである．

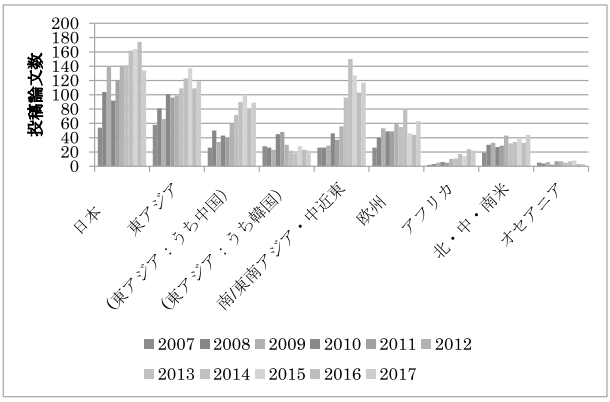
31/1 2017	Jan	Embodied-Brain systems Science and Adaptive Intelligence（1）(9 papers)
31/2	Jan	
31/3	Feb	Embodied-Brain systems Science and Adaptive Intelligence（2）(4 papers)
31/4	Feb	Regular Issue（4 papers）
31/5	Mar	Spatial Reasoning and Interaction for Real-World Robotics（5 papers）
31/6	Mar	Regular Issue（4 papers）
31/7	Apr	Regular Issue（4 papers）
31/8	Apr	Regular Issue（4 papers）
31/9	May	Regular Issue（4 papers）
31/10	May	Regular Issue（4 papers）
31/11	Jun	Regular Issue（4 papers）
31/12	Jun	Regular Issue（4 papers）
31/13	Jul	Regular Issue（4 papers）
31/14	Jul	Regular Issue（4 papers）
31/15	Aug	Regular Issue（4 papers）
31/16	Aug	Regular Issue（4 papers）
31/17	Sep	Regular Issue（4 papers）
31/18	Sep	Regular Issue（5 papers）
31/19	Oct	Advanced Manipulation（Survey Paper 6 papers）
31/20	Oct	
31/21	Nov	Sec Focused on Superhuman Technology（2 paper）
31/22	Nov	Selected and Extended Papers from SIMPAR 2016（6 papers）
31/23	Dec	Advanced Manipulation（Research Paper 8 papers）
31/24	Dec	

2．論文の投稿，査読の状況

平成 29 年（2017 年）における年間論文投稿総数は 502 件（新規投稿論文・376 件，再投稿論文・126 件）であった（下表参照）．投稿論文の採択率は，23.17% であった．近年，Editor リジェクトを積極的に実施することで，質の高い論文のみを査読者に回すような取り組みを行っているが，論文投稿総数は 500 件程度で安定している状況である．

なお，2016 年度の投稿から第 1 回めのディシジョンまでの期間は平均で 61.57 日であった（2015 年度は 66.7 日，2014 年度は 78 日，2013 年度は 80 日）．これまで 90 日を目標にしてきているが，SchlorOne の導入の効果もあり目標を 4 年連続で達成しており，その期間も徐々に減少している．また全投稿論文に対して CrossCheck™ software が活用され，剽窃の事前チェックを行っている．



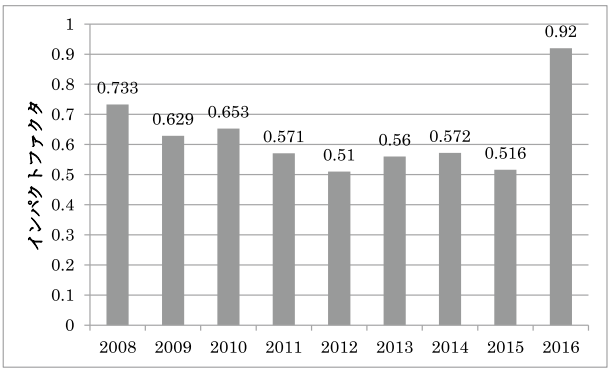


3．企画／編集／発行作業

今年度も，日本の優れた研究を世界に発信する特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」を企画し，学術講演会論文発表者への論文投稿をよびかける活動を行った．

4．国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information（ISI）社の Citation Index（インパクトファクタ）の推移を以下に示す．ここ数年，0.5 あたりで推移していたが，2016 年のインパクトファクタは 0.920 に大幅に上昇した．今後も Taylor & Francis 社との連携を通して，戦略的にこれを上昇させることを検討する．昨年度より検討を行っている Review paper の増加や，また引用の多い論文数件の Open Access 化，魅力ある特集号の企画等を実施する．



5．共同事業者である Taylor & Francis 社との契約・交渉

以下のような契約内容の更新を行った．

2017 年（Vol. 31）年間発行数：　24 号

1. 会員全員の電子購読料金　26,664 ユーロ／年

2. RSJへ支払われる編修料　15,000ユーロ／年（予定）
3. プリント版　会員価格　400ユーロ／Volume

採択された投稿論文は，掲載号発行前にTaylor and Francisにより電子出版され，閲覧・引用が可能となっている．採択決定から電子出版までは，早ければ1ヶ月以内で対応可能である．2017年は投稿から第1回めのディシジョンまでの平均日数は68.56日である（2016年度は61.57日，2015年度は66.7日，2014年度は78日，2013年度は80日）．多くの投稿論文は2回めの査読で採録の可否が決まるため，投稿から最終ディジョンまでの平均日数は101.94日となっている．今後も査読期間の短縮に努めていく．

Ⅳ．調査・研究（継続事業4）［担当：企画理事］（定款第4条3号）

前年度から継続して，以下の調査・研究専門委員会活動を実施した．

（1）研究専門委員会（※は本年度新規設置）

委員会名	委員長	発　足	種別
遊びとロボット研究専門委員会※	橋本秀紀	2017年5月	I種
ロボット考学研究専門委員会※	上出寛子	2017年4月	I種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会※	杉原知道	2017年4月	I種
ソフトロボティクス研究専門委員会※	新山龍馬	2017年4月	II種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014年9月	I種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	岡田浩之	2014年8月	II種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009年4月	I種
ヒューロビント研究専門委員会	松下光次郎	2009年4月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	倉爪　亮	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野　敦	2008年4月	I種
ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種

なお，ロボット哲学研究専門委員会（委員長：上出寛子）は2017年3月末，生活創政支援ロボティクス研究専門委員会（委員長：小笠原司）は2017年4月末，カー・ロボティクス研究専門委員会（委員長：大日方五郎）は2017年5月末で，それぞれ終了とした．

（2）調査研究委員会

委員会名	委員長	発　足
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見　卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	小平紀生	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	淺間　一	2013年1月

（3）技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発　足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

Ⅴ．表彰（継続事業5）［担当：企画理事］（定款第4条4号）

2017年9月第35回学術講演会において，学会誌論文賞3件，Advanced Robotics Best Paper Award 4件，実用化技術賞2件，研究奨励賞8件，ロボティクスシンポジア研究奨励賞3件，ロボット活用社会貢献賞1件，功労賞1件の表彰を行った．

1．学会誌論文賞

（1）タングルトポロジーを用いたロボットハンドによる人間の持ち替え動作の模倣
（日本ロボット学会誌第33巻第7号，pp. 514-523）
工藤俊亮（電気通信大学），ビナヤウェキン ポンタリン（東京大学），佐藤啓宏（東京大学），池内克史（東京大学）

（2）等身大ヒューマノイドにおける接触姿勢計画と歩行動作修正に基づく大型重量物全身押し操作行動の実現
（日本ロボット学会誌第34巻第7号，pp. 448-457）
室岡雅樹（東京大学），小椎尾侑多（東京大学），野沢峻一（東京大学），垣内洋平（東京大学），岡田　慧（東京大学），稲葉雅幸（東京大学）

（3）弾性可変型模擬舌を用いた食品テクスチャセンシング
（日本ロボット学会誌第34巻第9号，pp. 631-639）
柴田曉秀（大阪大学），石原清香（三栄源エフ・エフ・アイ（株）），中尾理美（三栄源エフ・エフ・アイ（株）），池上　聡（三栄源エフ・エフ・アイ（株）），中馬　誠（三栄源エフ・エフ・アイ（株）），東森　充（大阪大学）

2．Advanced Robotics Best Paper Award

（1）Electromyographic prosthetic hand using grasping-force-magnification mechanism with five independently driven fingers
（Advanced Robotics Vol. 29 No. 24, pp. 1586-1598）
Takeshi Takaki（Hiroshima University），Keisuke Shima（Yokohama National University），Naohisa Mukaidani（Hiroshima University），Toshio Tsuji（Hiroshima University），Akira Otsuka（Prefectural University of Hiroshima），Takaaki Chin（Hyogo Rehabilitation Center Hospital）

（2）Large attitude change flight of a quad tilt rotor unmanned aerial vehicle
（Advanced Robotics Vol. 30 No. 5, pp. 326-337）
Atsushi Oosedo（Tohoku University），Satoko Abiko（Tohoku University），Shota Narasaki（Tohoku University），Atsushi Kuno（Tohoku University），Atsushi Konno（Hokkaido University），Masaru Uchiyama（Tohoku University）

（3）Transformable multirotor with two-dimensional multilinks: modeling, control, and motion planning for aerial transformation
（Advanced Robotics Vol. 30 No. 13, pp. 825-845）
Moju Zhao（The University of Tokyo），Koji Kawasaki（The University of Tokyo），Kei Okada（The University of Tokyo），Masayuki Inaba（The University of Tokyo）

（4）Scissor lift with real-time self-adjustment ability based on variable gravity compensation mechanism
（Advanced Robotics Vol. 30 No. 15, pp. 1014-1026）
Naoyuki Takesue（Tokyo Metropolitan University），Yosuke Komoda（Tokyo Metropolitan University），Hideyuki Murayama（Toyota Motor Corporation），Kousyun Fujiwara（Toyota Motor Corporation），Hideo Fujimoto（Nagoya Institute of Technology）

3．実用化技術賞

（1）中小企業による移動サービスロボットの製品化を容易にするT型ロボットベース
坂下和広（東京都立産業技術研究センター），村上真之（東京都立産業技術研究センター），小林祐介（東京都立産業技術研究センター），佐藤　研（東京都立産業技術研究センター），益田俊樹（東京都立産業技術研究センター），谷津　明（（株）システムクラフト），前田政昭（（株）システムクラフト），奥住　功（（株）システムクラフト）

（2）直感的な作業手順編集GUIとパスプランニングの統合によりティーチング作業負荷を軽減したバイオメディカルロボットシステム
渡邉　航（（株）安川電機），石川将太（（株）安川電機），柿坂洋一（（株）安川電機），辻　徳生（金沢大学）

4．研究奨励賞

（1）奥村有加里（東京大学）
屈折を用いたスケール復元可能なStructure from Motionのための初期値フィルタリングによる全体最適化
第34回学術講演会／1V1-04

（2） 笠井宥佑（名古屋大学）
外部駆動高速アクチュエータを統合した局所的オンチップ流体制御
第34回学術講演会／3B1-01
（3） 岸　竜弘（早稲田大学）
笑いを通じた人間とロボットのインタラクションに関する研究（第7報：刺激の入力に対するロボットの誇張したリアクションの生成）
第34回学術講演会／1W2-05
（4） 小椎尾侑多（東京大学）
防水スーツ着用ヒューマノイドロボットによる水から受ける力を考慮した水中歩行制御
第34回学術講演会／3Y2-03
（5） 佐瀬一弥（北海道大学）
領域分割された医用画像の有限要素メッシュ埋め込みにおけるトポロジ保存手法
第34回学術講演会／1W1-06
（6） 髙根英里（東北大学）
面状全方向クローラ移動体“Omni-Board”―第4報：横方向用履帯の傾き変位許容実験と全周クローラの動作実験―
第34回学術講演会／2U1-04
（7） 野村陽人（東北大学）
スクリュー式差動回転機構 ～全方向駆動車輪としての具現化～
第34回学術講演会／1G3-05
（8） 藤田政宏（東北大学）
内体積可変メカニズムを有するトーラス袋状グリッパ機構 ―全方向なじみグリッパにおける大型対象物の把持性の向上―
第34回学術講演会／2G1-07

5．ロボティクスシンポジア研究奨励賞
（1） 熱田洋史（大阪大学）
力学変容に基づく二脚ロボットの平面全方位歩行制御
第22回ロボティクスシンポジア／5C2
（2） 水島歌織（金沢大学）
濡れた物体でも安定把持可能な流体指表面形状の検討
第22回ロボティクスシンポジア／2D3
（3） 山本知生（東北大学）
配管内とオープンスペースを走行可能な空圧駆動型柔軟索状ロボット
第22回ロボティクスシンポジア／4D2

6．ロボット活用社会貢献賞
（1） 国際ロボット展主催等の企画・報道活動によるロボット利活用推進・市場育成への貢献
（株）日刊工業新聞社

7．功労賞
（1） Advanced Roboticsの持続的発展への貢献
新井史人（名古屋大学）

Ⅵ．国際（継続事業6）［担当：国際理事］（定款第4条5号）

1．国際委員会活動

国際委員会は，日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にしてRSJの国際的な存在感と地位を確立することを目的とし，このための戦略を策定し実施するための委員会として活動している．今年度もこれまでの活動を継続し，

・国内の外国人研究者向けの研究発表の機会提供サービス，
・国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み，
・Asian Robotics Society Union（ARSU）をベースとしたアジア圏でのロボット系学会間の協調体制の活性化

の三つを柱に活動を行った．

2．第35回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施

9月11日～14日に東洋大学にて開催された第35回日本ロボット学会学術講演会において，例年どおりセッションの司会，発表，質疑応答のすべてが英語で行われる「国際セッション」を設けた．発表者には日本に滞在する留学生・研究者が多く含まれ，日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは，外国人会員に対する有益なサービスであるとともに，日本ロボット学会を外国の人々に知ってもらうための貴重な機会である．また日本の若手研究者にとって，国際学会で発表する前の練習としても利用されており，こういった場を提供する意義は大きい．なお，会員でなくとも登壇することを認めている．

今年度の第35回日本ロボット学会学術講演会においては，以下の三つのセッションがオーガナイズされ，計14の論文発表があった．

・IS1：Special issue on“Robotics x AI” 5件
・IS2：Special issue on assistive robotics　4件
・IS3：Robotics, mechatronics and control　5件

3．国際交流活動

IROS2017会期中に開催された第12回アジアロボット学会連合サミットミーティング（12th Asian Robotics Society Union Summit Meeting）に参加した．これはアジア＋オセアニアのロボット系学会の会長が年に1度集まって情報交換する場である．

日　　時：2017年9月26日　11：45～14：15（IROS2017期間中）
場　　所：バンクーバーコンベンションセンター3F 302号室（IROS2017会場）
参 加 者：
［ARAA］（Australian Robotics and Automation Association, Australia and New Zealand）
Denny Oetomo, The University of Melbourne
Ho Seok Ahn, The University of Auckland
［CAA］（Chinese Association of Automation, China）
Lianqing Liu, National Robotics Standardization General Working Group of China/Shenyang Institute of Automation
［KROS］（Korea Robotics Society, Korea）
Hyouk Ryeol Choi, vice president of KROS, Sungkyunkwan University
Ja Choon Koo, vice president of KROS, Sungkyunkwan University
［RSJ］（Robotics Society of Japan, Japan）
Toshihiro Sawa, president of RSJ
Tomohiro Shibata, executive board of international affairs of RSJ
Kazuhiro Nakadai, executive board of international affairs of RSJ
Yuji Hosoda, director of general affairs and secretary-general of RSJ
［RST］Robotics Society of Taiwan（RST）
Li-Chen Fu, National Taiwan University
［TRS］（Thai Robotics Society, Thailand）
Nantida Nillahoot, Mahidol University
Ronnapee Chaichaowarat, Tohoku University

主な議題：
（1） ARSUホームページ（http://www.asian-robotics.org/）の更新と研究成果情報の共有．ARSUホームページシステムおよび掲載コンテンツ構築完了，RSJが継続してメンテ管理できるようにシステムの運用を開始
（2） 新しいメンバーの開拓
（3） 次回ホストの決定：マドリッド開催，RST（台湾）主催

4．国際会議への対応

RSJが共催となっているRO-MANとIROSに対し，以下のような活動を行った．

（1） 26th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication（RO-MAN 2017）
期間：2017年8月28日～9月1日，会場：Pestana Palace Hotel, Lisbon, Portugal
8月28日にステアリング会議が開催され，会長の代理で国際担当理事1名が出席し，スポンサー学会の体制や今後の開催計画などを確認した．2018年より，IEEEのConferenceに昇格することが決まり，RSJとしてはIROSと併せ，正式に二つのConferenecoのスポンサーとなることになった．また，国際理

事2名がRSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Awardの審査委員として加わり，表彰式で贈賞した．

（2） 2017 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems（IROS 2017）

期 間 ：2017年9月24日 ～ 9月28日， 会 場 ：Vancouver convention center, Vancouver, Canada

(a) 9月23日，11：30 ～ 17：00にIROS Advisory/Steering Committee Meetingが開催され，会長1名，副会長1名，国際担当理事2名，監事1名，理事・事務局長1名（計6名）が参加し，今後の開催体制や開催計画などを確認した．IROS-SDC Travel Award（IROS Student and Developing Countries Travel Award）を新設し，最大USD 50,000を，co-sponsoring societiesで本目的にスポンサリングすることが決定された．IROS 2018では努力目標，IROS 2019から義務化することとなった．予算の考え方など詳細については継続議論となった．また，RSJとSICE間でのIROS Best Paper Awardに関するMOUが承認された（従来はRSJ-NTF間）．今後も継続して，IROSでの当学会の存在感を根付かせることを目標に，Advisory/Steering Committee Meetingへの継続的な参加を図ることとした．

(b) 9月25日，12：00 ～ 13：00に産学連携を目的としたRSJ-IAC Lunch（RSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration）を企画開催した．

・IROSのDigest bookの中に開催通知を入れてもらった．
・IROS Webに開催通知を掲載した．
・機器展示を行っている企業10社から各5分プレゼンテーションを行ってもらった．
・150食のLunch boxの提供を行った．

(c) 9月25日，14：30 ～ 17：30に若手研究者の教育と交流を目的としたRSJ Tutorialを企画開催した（参加費無料）．今年は早稲田大学の尾形哲也先生にDeep Learning for Robotics toward Deep Cognitive Systemsというタイトルでチュートリアル講演を企画した．

・IROSのDigest bookの中に開催通知を入れてもらった．
・IROS Webに開催通知を掲載した．
・講師謝金を負担した．

5．国際会議共催／協賛

共催となっているRO-MANおよびIROSを含め，本会に関連する国際会議を共催（2件），協賛（7件），後援（4件）した（2017年1月～12月31日審査分）．

Ⅶ．学術講演会（その他事業1）［担当：学術講演会理事］（定款第4条1号）

1．学術講演会

（1） 第35回学術講演会

期　　日：2017年9月11日（月）～ 14日（木）
会　　場：東洋大学　川越キャンパス（埼玉県川越市）
組　　織：実行委員長：松元明弘（東洋大学）
　　プログラム委員長：山下　淳（東京大学）
発表件数：487件

一般セッション	24テーマ	43セッション	218件
オーガナイズドセッション	34テーマ	43セッション	255件
国際セッション	3テーマ	3セッション	14件

オープンフォーラム：13テーマ
特別講演　講　　師：坂村　健氏（INIAD東洋大学情報連携学部学部長）
　　タイトル：「IoTからIoSへ ―社会に溶け込むロボット」

【参加者数：996名】
正会員／終身会員（事前）：310名　（当日）：168名
学生会員（事前）：199名　（当日）：25名
協賛後援団体一般会員（事前）：27名　（当日）：18名
協賛後援団体学生会員（事前）：46名　（当日）：5名
一般非会員（事前）：18名　（当日）：53名
学生非会員（事前）：62名　（当日）：15名
優待券利用の賛助会員（当日）：22名
優待券非利用の賛助会員（事前）：2名　（当日）：6名
展示出展企業参加：（事前）：4名　（当日）：8名
無料招待者：8名

【懇親会：335名】
一般・有料（事前）：146名　（当日）：45名
学生・有料（事前）：94名　（当日）：10名
協賛企業・有料（当日）：7名
無料招待者（受賞者等）：33名

Ⅷ．講習会（その他事業2）［担当：事業理事］（定款第4条1号）

1．ロボット工学セミナー

下記のセミナーを開催した．

（1） 第104回「物流現場の自動化を支援する物体ハンドリング技術の最前線」

期日：2017年4月26日（水）　東京大学　山上会館
講師：菊田一郎（流通研究社），出杏光魯仙（MUJIN），山野辺夏樹（産業技術総合研究所），山崎公俊（信州大学），米辻泰山（Preferred Networks）
オーガナイザー：田中淳也（東芝）
参加者：110名（会員・協賛：27名，会員・協賛（学生）：2名，会員外：39名，賛助等招待：18名，賛助等優待：5名，遠隔：19名）

（2） 第105回「ロボットに使えるビジョン技術：基礎から応用まで」

期日：2017年5月23日（火）　東京大学　武田先端知ビル　武田ホール
講師：上田隆一（千葉工業大学），岡谷貴之（東北大学），藤垣元治（福井大学），横原　靖（大阪大学）
オーガナイザー：小川原光一（和歌山大学）
参加者：147名（会員・協賛：34名，会員・協賛（学生）：21名，会員外：31名，会員外（学生）：19名，賛助等招待：18名，賛助等優待：5名，遠隔：19名）

（3） 第106回「ロボットの作り方 ～ROSを使用した画像処理とマニピュレータ制御～」

期日：2017年6月17日（土），18日（日）　筑波大学　筑波キャンパス
講師：朝原佳昭（トヨタ自動車）
オーガナイザー：ジェフ ビグス（産業技術総合研究所），鈴木拓央（愛知県立大学）
アドバイザー：中内　靖（筑波大学）
参加者：23グループ，48名（会員・協賛：12名，会員・協賛（学生）：7名，会員外：8名，会員外（学生）：16名，賛助等招待：3名，賛助等優待：2名）

（4） 第107回「インタラクションにより人や環境に適応するロボット・AIの行動戦略」

期日：2017年8月8日（火）　東京大学　武田先端知ビル　武田ホール
講師：三宅陽一郎（スクウェア・エニックス），山田茂雄（日本ユニシス），藤田和之（イトーキ），宮下敬宏（ATR），長井隆行（電気通信大学），松原崇充（奈良先端科学技術大学院大学）
オーガナイザー：藤本純也（富士通研究所）
参加者：71名（会員・協賛：26名，会員・協賛（学生）：6名，会員外：11名，会員外（学生）：2名，賛助等招待：10名，賛助等優待：6名，遠隔：10名）

（5） 第108回「ものづくりを変革する協調ロボットのための安全対策技術と人理解技術」

期日：2017年9月4日（月）　東京大学　本郷キャンパス
講師：入江俊充（安川電機），岡田和也（IDEC），山田陽滋（名古屋大学），小笠原司（奈良先端科学技術大学院大学），五十嵐洋（東京電機大学）
オーガナイザー：中島　茜（オムロン）
参加者：62名（会員・協賛：14名，会員・協賛（学生）：2名，

会員外：27 名，会員外（学生）：2 名，賛助等招待：6 名，賛助等優待：2 名，遠隔：9 名）

（6） 第 109 回「臨床応用から理解するリハビリテーション・ロボティクス」
期日：2017 年 10 月 13（金） 東京大学　本郷キャンパス
講師：比留川博久（産業技術総合研究所），神作憲司（国立障害者リハビリテーションセンター研究所），宮井一郎（森之宮病院），道免和久（兵庫医科大学），大畑光司（京都大学大学院）
オーガナイザー：安　琪（東京大学）
参加者：46 名（会員・協賛：14 名，会員・協賛（学生）：4 名，会員外：11 名，会員外（学生）：7 名，賛助等招待：3 名，賛助等優待：1 名，遠隔：6 名）

（7） 第 106 回（2）「ロボットの作り方 ～ROS を使用した画像処理とマニピュレータ制御～」
期日：2017 年 10 月 21 日（土），22 日（日） 中央大学　後楽園キャンパス
講師：朝原佳昭（トヨタ自動車）
オーガナイザー：ジェフ ビグス（産業技術総合研究所），鈴木拓央（愛知県立大学）
参加者：17 グループ，31 名（会員・協賛：7 名，会員・協賛（学生）：7 名，会員外：5 名，会員外（学生）：5 名，賛助等招待：2 名，賛助等優待：5 名）

（8） 第 110 回「強いロボット ～現場を指揮する中堅研究者による最前線のタフ技術～」
期日：2017 年 11 月 12（日） 東北大学　青葉山東キャンパス
講師：大野和則（東北大学），亀川哲志（岡山大学），橋本健二（早稲田大学），山崎公俊（信州大学）
オーガナイザー：佐藤徳孝（名古屋工業大学）
参加者：17 名（会員・協賛：1 名，会員・協賛（学生）：1 名，会員外：4 名，会員外（学生）：4 名，遠隔：7 名）

※ のべ参加者：532 名
会員・協賛：135 名，会員・協賛（学生）：50 名，会員外：136 名，会員外（学生）：55 名，賛助等招待：60 名，賛助等優待：26 名，遠隔：70 名

2．共催事業
本会に関連する国内行事（講演会，シンポジウム，講習会，展示会，コンテスト等）の共催・協賛・後援について審査を行った．共催 7 件，協賛 78 件，後援 11 件（2017 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日審査分）．
主な国内共催事業：

（1） 第 22 回ロボティクスシンポジア（期日：2017 年 3 月 15 日（水），16 日（木））
（2） ロボカップジャパンオープン 2017（期日：2017 年 5 月 3 日（水）～ 7 日（日））
（3） 知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2017（期日：2017 年 6 月 10 日（土），11 日（日））
（4） 第 17 回レスキューロボットコンテスト（期日：2017 年 8 月 11 日（土），12 日（日））
（5） 第 17 回建設ロボットシンポジウム（期日：2017 年 8 月 26 日（月）～ 8 月 30 日（水））
（6） RSNP コンテスト（期日：2017 年 9 月 13 日（水））
（7） つくばチャレンジ 2017（期日：2017 年 11 月 5 日（日）（本走行））

Ⅸ．法人処理［担当：庶務理事］

1．会員状況

	平成 29 年 12 月 31 日現在	平成 28 年 12 月 31 日現在	増　減
名誉会員	9 名	9 名	0 名
正会員	2,977 名	2,957 名	20 名増
学生会員 A	753 名	1,028 名	275 名減
学生会員 B	230 名	―	230 名増
終身会員	107 名	96 名	11 名増
会員総数	4,076 名	4,090 名	14 名減
賛助会員	82 団体（105 口）	78 団体（101 口）	4 団体増（4 口増）

2．総会

（1） 第 7 回定時総会
会期：平成 29 年 3 月 22 日（水）
会場：全水道会館
出席代議員数：55 名（うち委任状提出：34 名）（代議員総数：57 名，総会成立の定数 29 名以上，議題の可決に必要な出席代議員数 39 名以上）
議題：平成 28 年度の事業報告・決算報告，平成 29 年度の事業計画・予算計画，平成 29 年度役員の選任，定款及び会費入会金細則の改定，以上について審議し，議決した．

3．委員会
下記の委員会を開催した．

委員会名	委員長（1月～ 3月）	委員長（3月～ 12月）
会誌編集委員会	橋本浩一	山下　淳
欧文誌委員会	平田泰久	望山　洋
事業計画委員会	和田一義	山野辺夏樹
国際委員会	岡田昌史	柴田智広
研究協議会	吉見　卓	松日楽信人
学術講演会実行委員会	妻木勇一（34 回）	松元明弘（35 回）
表彰委員会	澤　俊裕	浅田　稔
学会誌論文賞選考小委員会	吉見　卓	松日楽信人
Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	吉見　卓	松日楽信人
実用化技術賞選考小委員会	澤　俊裕	浅田　稔
功労賞選考小委員会	澤　俊裕	浅田　稔
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	吉見　卓	松日楽信人
研究奨励賞選考小委員会	澤　俊裕	浅田　稔
ロボティクスシンポジア研究奨励賞選考小委員会	澤　俊裕	浅田　稔
外部表彰選考小委員会	吉見　卓	松日楽信人
体制整備委員会	高西淳夫	澤　俊裕
アドバイザリーボード	高西淳夫	澤　俊裕
コンプライアンス委員会	高西淳夫	澤　俊裕
情報システム管理委員会	澤　俊裕	冨田浩治
学術講演会管理委員会	吉見　卓	松日楽信人
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	澤　俊裕	嶋地直広
学会価値委員会	澤　俊裕	浅田　稔
IRH2017 実行委員会	吉見　卓	松日楽信人

4．役員の選出
平成 29 年度の理事・監事を選出した．

5．運営報告会，理事会

（1） 平成 29 年 9 月 12 日（火）に運営報告会を開催し，会務報告を行った．
（2） 平成 29 年度中に 10 回の理事会を開催し，会務の審理と処理を行った．

6．フェロー，名誉会員の選任
8 名のフェローを選任した．

7．学会の基盤強化
学会価値委員会にて，個人会員および賛助会員の拡大を目標に，学会誌記事の多様化，戦略的編集等の学会価値向上につながる施策につき推進した．また，直接的な個人会員増加施策として，学生会員を学生会員 A（会誌送付有）と学生会員 B（会誌送付なしで年会費割安）

の2種に分割した．さらに，学術講演会の参加登録に伴う入会キャンペーンを実施した．

8．学会の社会的価値向上

若手教育，産学連携，国際化を3本の柱として強化している．若年層の工学教育および国際化の施策として第3回インターナショナルロボットハイスクールIRH2017を実施し国内外129名，8か国の参加を得，さらにIRH2018の実施を決定した．産学連携については，学術講演会オープンフォーラムにて第3回中小企業産学連携パネルディスカッションを開催し，また日本ロボット工業会との産学連携活動を継続している．国際化については，共催国際学会のIROSおよびRo-MANでの当学会の積極的関与施策を進めた．

9．学会サービスの向上

賛助会員や実用化技術賞受賞者に対するPR用学会ロゴの提供，学術講演会機器展示出展費の割引，無料化を進めた．また，新規ロボット工学ハンドブックの発刊に向けて編集体制構築を開始した．

X．事業報告に係る附属明細書［担当：庶務理事］

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません．

【第 2 号議案】

平成 29 年度決算報告

貸　借　対　照　表

平成 29 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資　産　の　部			
1. 流　動　資　産			
現　金　預　金	215,087,956	208,115,808	6,972,148
現　　金	3,123,652	4,851,779	△ 1,728,127
普　通　預　金	59,232,227	58,850,314	381,913
振　替　口　座	18,273,585	9,966,533	8,307,052
通　常　貯　金	989,505	989,497	8
定　期　預　金	133,468,987	133,457,685	11,302
未　収　会　費	2,314,800	2,272,000	42,800
未　　収　　金	1,951,488	3,744,472	△ 1,792,984
前　　払　　金	531,164	519,349	11,815
立　　替　　金	35,640	0	35,640
仮　　払　　金	4,814,966	6,583,845	△ 1,768,879
流　動　資　産　合　計	224,736,014	221,235,474	3,500,540
2. 固　定　資　産			
(1)特　定　資　産			
退職給付引当資産	11,125,213	10,071,262	1,053,951
定　期　預　金	21,000,000	21,000,000	0
特　定　財　産　合　計	32,125,213	31,071,262	1,053,951
(2)その他固定資産			
電　話　加　入　権	153,100	153,100	0
敷　　金	63,000	63,000	0
保　　証　　金	2,500,000	2,500,000	0
その他固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固　定　資　産　合　計	34,841,313	33,787,362	1,053,951
資　　産　　合　　計	259,577,327	255,022,836	4,554,491
Ⅱ　負　債　の　部			
1. 流　動　負　債			
未　　払　　金	2,323,904	2,577,756	△ 253,852
前　受　会　費	23,432,000	23,184,000	248,000
前　受　入　会　金	11,000	7,000	4,000
預　　り　　金	758,426	747,936	10,490
仮　　受　　金	2,834,746	4,639,625	△ 1,804,879
未払法人税等	70,000	70,000	0
流　動　負　債　合　計	29,430,076	31,226,317	△ 1,796,241
2. 固　定　負　債			
退職給付引当金	11,125,213	10,071,262	1,053,951
固　定　負　債　合　計	11,125,213	10,071,262	1,053,951
負　　債　　合　　計	40,555,289	41,297,579	△ 742,290
Ⅲ　正味財産の部			
一　般　正　味　財　産	219,022,038	213,725,257	5,296,781
(うち特定資産への充当額)	(21,000,000)	(21,000,000)	(0)
正　味　財　産　合　計	219,022,038	213,725,257	5,296,781
負債及び正味財産合計	259,577,327	255,022,836	4,554,491

貸借対照表内訳表

平成 29 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　　目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合　計
Ⅰ 資　産　の　部					
1. 流　動　資　産					
現金預金	2,834,746		212,253,210		215,087,956
未収会費			2,314,800		2,314,800
未 収 金			1,951,488		1,951,488
前 払 金			531,164		531,164
立 替 金			35,640		35,640
仮 払 金			4,814,966	2,834,746	1,980,220
流動資産合計	2,834,746	0	221,901,268	2,834,746	221,901,268
2. 固　定　資　産					
(1)特定資産					
退職給付引当資産	8,023,218	281,999	2,819,996		11,125,213
定期預金			21,000,000		21,000,000
特定資産合計	8,023,218	281,999	23,819,996	0	32,125,213
(2)その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷　　金			63,000		63,000
保 証 金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固定資産合計	8,099,482	307,204	26,434,627	0	34,841,313
資産合計	10,934,228	307,204	248,335,895	2,834,746	256,742,581
Ⅱ 負　債　の　部					
1. 流　動　負　債					
未払金			2,323,904		2,323,904
前受会費			23,432,000		23,432,000
前受入会金			11,000		11,000
預り金			758,426		758,426
仮受金	2,834,746			2,834,746	0
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	2,834,746	0	26,595,330	2,834,746	26,595,330
2. 固　定　負　債					
退職給付引当金	8,023,218	281,999	2,819,996		11,125,213
固定負債合計	8,023,218	281,999	2,819,996	0	11,125,213
負債合計	10,857,964	281,999	29,415,326	2,834,746	37,720,543
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469	0	0
Ⅲ 正味財産の部					
一般正味財産	0	0	219,022,038	0	219,022,038
正味財産合計	0	0	219,022,038	0	219,022,038
負債及び正味財産合計	10,934,228	307,204	248,335,895	2,834,746	256,742,581

正味財産増減計算書

平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
①特定資産運用益	1,862	5,269	△ 3,407
特定資産受取利息	1,862	5,269	△ 3,407
②受取入会金	148,000	510,000	△ 362,000
正会員受取入会金	83,000	140,000	△ 57,000
学生会員受取入会金	65,000	370,000	△ 305,000
③受取会費	42,182,800	43,210,000	△ 1,027,200
正会員受取会費	30,090,000	30,330,000	△ 240,000
学生会員受取会費	3,612,800	4,400,000	△ 787,200
賛助会員受取会費	8,480,000	8,480,000	0
④事業収益	43,285,690	43,275,364	10,326
参加費事業収益	15,474,000	15,882,000	△ 408,000
懇親会参加費事業収益	1,704,000	2,366,000	△ 662,000
展示料事業収益	4,192,000	3,753,000	439,000
講演概要集広告料事業収益	197,000	339,000	△ 142,000
セミナー参加費事業収益	6,269,500	4,324,000	1,945,500
会誌掲載料事業収益	7,817,040	8,945,640	△ 1,128,600
会誌広告料事業収益	4,364,280	4,111,560	252,720
会誌頒布事業収益	1,427,652	1,628,532	△ 200,880
編集料事業収益	1,840,218	1,925,632	△ 85,414
⑤受取補助金等	0	2,483,500	△ 2,483,500
受取国庫補助金	0	1,400,000	△ 1,400,000
受取地方公共団体助成金	0	1,083,500	△ 1,083,500
⑥雑収益	13,804,671	3,343,558	10,461,113
受取利息	11,761	32,815	△ 21,054
雑収益	13,792,910	3,310,743	10,482,167
経常収益計	99,423,023	92,827,691	6,595,332
(2)経常費用			
①事業費	64,016,094	66,897,976	△ 2,881,882
給料手当	9,616,625	9,395,384	221,241
臨時雇賃金	1,836,535	1,581,475	255,060
退職給付費用	761,500	633,517	127,983
福利厚生費	1,471,183	1,491,067	△ 19,884
旅費交通費	1,641,519	1,652,241	△ 10,722
通信運搬費	3,927,989	4,211,383	△ 283,394
消耗什器備品費	119,040	0	119,040
消耗品費	2,617,173	1,401,504	1,215,669
印刷製本費	17,563,686	16,723,979	839,707
賃借料	572,078	1,880,760	△ 1,308,682
諸謝金	1,827,931	2,143,788	△ 315,857
租税公課	942,000	1,088,900	△ 146,900
支払負担金	10,037,909	11,230,633	△ 1,192,724
委託費	8,956,598	10,367,303	△ 1,410,705
雑費	2,124,328	3,096,042	△ 971,714
②管理費	30,040,148	32,425,606	△ 2,385,458
給料手当	9,124,896	9,014,861	110,035
臨時雇賃金	2,654,898	3,776,488	△ 1,121,590
退職給付費用	292,451	215,494	76,957
福利厚生費	1,412,583	1,329,547	83,036
会議費	160,596	170,856	△ 10,260
旅費交通費	522,339	274,587	247,752
通信運搬費	746,917	1,469,592	△ 722,675
消耗什器備品費	528,810	0	528,810
消耗品費	419,916	601,215	△ 181,299
印刷製本費	784,315	704,002	80,313
光熱水料費	378,507	348,292	30,215
賃借料	7,025,016	7,364,002	△ 338,986
保険料	6,000	6,000	0
支払手数料	609,979	486,154	123,825
諸会費	343,357	373,660	△ 30,303
諸謝金	1,100,628	1,085,940	14,688
租税公課	51,300	71,950	△ 20,650
委託費	2,555,073	3,053,387	△ 498,314
雑費	1,322,567	2,079,579	△ 757,012
経常費用計	94,056,242	99,323,582	△ 5,267,340
評価損益等調整前当期経常増減額	5,366,781	△ 6,495,891	11,862,672
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,366,781	△ 6,495,891	11,862,672
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	5,366,781	△ 6,495,891	11,862,672
法人税，住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	5,296,781	△ 6,565,891	11,862,672
一般正味財産期首残高	213,725,257	220,291,148	△ 6,565,891
一般正味財産期末残高	219,022,038	213,725,257	5,296,781
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	219,022,038	213,725,257	5,296,781

正味財産増減計算書内訳表

平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日まで

No. 1　　（単位：円）

科目	実施事業等会計							
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	小計 (A)
Ⅰ 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1)経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入会金								
学生会員受取入会金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	13,608,972	1,840,218	0	0	0	0	15,449,190
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演概要集広告料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		7,817,040						7,817,040
会誌広告料事業収益		4,364,280						4,364,280
会誌頒布事業収益		1,427,652						1,427,652
編集料事業収益			1,840,218					1,840,218
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金								
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								
雑収益								
経常収益計	0	13,608,972	1,840,218	0	0	0	0	15,449,190
(2)経常費用								
事業費	1,448,093	25,399,223	10,413,841	1,342,743	7,291,083	915,480	0	46,810,463
給料手当		5,051,938			3,876,960			8,928,898
臨時雇賃金	291,025	24,840		84,000				399,865
退職給付費用		404,485			327,770			732,255
福利厚生費		783,422			582,215			1,365,637
旅費交通費	87,997	28,030	1,740	133,430	260,000	356,684		867,881
通信運搬費	24,222	3,448,581	35,100	24,456	92,023	50,382		3,674,764
消耗什器備品費			119,040					119,040
消耗品費	79,200	56,052	26,460	36,962	337,563			536,237
印刷製本費	51,540	13,499,671		139,474	19,872			13,710,557
賃借料	4,980			150,695	23,760			179,435
諸謝金	66,822			551,670		167,056		785,548
租税公課		437,600	8,000					445,600
支払負担金	330,304		6,951,677	154,016	27,727			7,463,724
委託費	497,340	1,664,604	3,271,824			67,500		5,501,268
雑費	14,663			68,040	1,743,193	273,858		2,099,754
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								
旅費交通費								
通信運搬費								
消耗什器備品費								
消耗品費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	1,448,093	25,399,223	10,413,841	1,342,743	7,291,083	915,480	0	46,810,463
評価損益等調整前当期経常増減額	−1,448,093	−11,790,251	−8,573,623	−1,342,743	−7,291,083	−915,480	0	−31,361,273
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	−1,448,093	−11,790,251	−8,573,623	−1,342,743	−7,291,083	−915,480	0	−31,361,273
2. 経常外増減の部								
(1)経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	1,448,093	11,790,251	8,573,623	1,342,743	7,291,083	915,480	0	31,361,273
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税，住民税及び事業税								
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅱ 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0

正味財産増減計算書内訳表

平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日まで

No. 2　　（単位：円）

科目	その他会計				法人会計(C)	内部取引消去	合計(A)+(B)+(C)
	他1 学術講演会	他2 講習会	共通	小計(B)			
Ⅰ 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1)経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	1,862	0	1,862
特定資産受取利息					1,862		1,862
受取入会金	0	0	0	0	148,000	0	148,000
正会員受取入会金					83,000		83,000
学生会員受取入会金					65,000		65,000
受取会費	0	0	0	0	42,182,800	0	42,182,800
正会員受取会費					30,090,000		30,090,000
学生会員受取会費					3,612,800		3,612,800
賛助会員受取会費					8,480,000		8,480,000
事業収益	21,567,000	6,269,500	0	27,836,500	0	0	43,285,690
申込金事業収益							
参加費事業収益	15,474,000			15,474,000			15,474,000
懇親会参加費事業収益	1,704,000			1,704,000			1,704,000
展示料事業収益	4,192,000			4,192,000			4,192,000
講演概要集広告料事業収益	197,000			197,000			197,000
セミナー参加費事業収益		6,269,500		6,269,500			6,269,500
会誌掲載料事業収益							7,817,040
会誌広告料事業収益							4,364,280
会誌頒布事業収益							1,427,652
編集料事業収益							1,840,218
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
受取地方公共団体助成金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	13,804,671	0	13,804,671
受取利息					11,761		11,761
雑収益					13,792,910		13,792,910
経常収益計	21,567,000	6,269,500	0	27,836,500	56,137,333	0	99,423,023
(2)経常費用							
事業費	12,661,825	4,543,806	0	17,205,631	0	0	64,016,094
給料手当	687,727			687,727			9,616,625
臨時雇賃金	1,247,670	189,000		1,436,670			1,836,535
退職給付費用	29,245			29,245			761,500
福利厚生費	105,546			105,546			1,471,183
旅費交通費	57,294	716,344		773,638			1,641,519
通信運搬費	145,017	108,208		253,225			3,927,989
消耗什器備品費							119,040
消耗品費	93,750	1,987,186		2,080,936			2,617,173
印刷製本費	3,795,940	57,189		3,853,129			17,563,686
賃借料		392,643		392,643			572,078
諸謝金	111,370	931,013		1,042,383			1,827,931
租税公課	363,800	132,600		496,400			942,000
支払負担金	2,554,185	20,000		2,574,185			10,037,909
委託費	3,455,330			3,455,330			8,956,598
雑費	14,951	9,623		24,574			2,124,328
管理費	0	0	0	0	30,040,148	0	30,040,148
給料手当					9,124,896		9,124,896
臨時雇賃金					2,654,898		2,654,898
退職給付費用					292,451		292,451
福利厚生費					1,412,583		1,412,583
会議費					160,596		160,596
旅費交通費					522,339		522,339
通信運搬費					746,917		746,917
消耗什器備品費					528,810		528,810
消耗品費					419,916		419,916
印刷製本費					784,315		784,315
光熱水料費					378,507		378,507
賃借料					7,025,016		7,025,016
保険料					6,000		6,000
支払手数料					609,979		609,979
諸会費					343,357		343,357
諸謝金					1,100,628		1,100,628
租税公課					51,300		51,300
委託費					2,555,073		2,555,073
雑費					1,322,567		1,322,567
経常費用計	12,661,825	4,543,806	0	17,205,631	30,040,148	0	94,056,242
評価損益等調整前当期経常増減額	8,905,175	1,725,694	0	10,630,869	26,097,185	0	5,366,781
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	8,905,175	1,725,694	0	10,630,869	26,097,185	0	5,366,781
2. 経常外増減の部							
(1)経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	−8,905,175	−1,725,694	0	−10,630,869	−20,730,404	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	5,366,781	0	5,366,781
法人税，住民税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	5,296,781	0	5,296,781
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	213,725,257	0	213,725,257
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	219,022,038	0	219,022,038
Ⅱ 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	0	0	0	0	219,022,038	0	219,022,038

財務諸表に対する注記

1．重要な会計方針

（1）引当金の計上基準

退職給付引当金は，期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している．

（2）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は，税込み方式によっている．

2．特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は，次のとおりである．

（単位：円）

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特　定　資　産				
退職給付引当資産	10,071,262	1,053,951	0	11,125,213
定　期　預　金	21,000,000	0	0	21,000,000
合　　計	31,071,262	1,053,951	0	32,125,213

3．特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は，次のとおりである．

（単位：円）

科　　目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
特　定　資　産				
退職給付引当資産	11,125,213	－	(　　0)	(11,125,213)
定　期　預　金	21,000,000	(　　0)	(21,000,000)	－
合　　計	32,125,213	(　　0)	(21,000,000)	(11,125,213)

附　属　明　細　書

1．特定資産の明細

特定資産の明細については，「財務諸表に対する注記」の「2．特定資産の増減額及びその残高」に記載のとおりである．

2．引当金の明細

（単位：円）

科　　目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	10,071,262	1,053,951	0	0	11,125,213

お　知　ら　せ

財　産　目　録

平成 29 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金預金			
現金　手許有高	3,123,652		
普通預金　三菱東京 UFJ 銀行本店	20,032,908		
〃　みずほ銀行本郷支店	17,458,419		
〃　みずほ銀行本郷支店	255,828		
〃　りそな銀行本郷支店	10,234,486		
〃　三井住友銀行小石川支店	11,250,586		
定期預金　三井住友銀行小石川支店	55,278,476		
〃　三菱 UFJ 信託銀行本店	60,123,421		
〃　みずほ銀行本郷支店	18,067,090		
振替口座　ゆうちょ銀行	18,273,585		
通常貯金　ゆうちょ銀行	989,505		
未収会費　平成 29 年度会費　322 名，2 口	2,314,800		
未収金　学会誌投稿料・広告料他	1,951,488		
前払金　平成 30 年 1 月分事務所家賃他	531,164		
立替金　ロボティクスシンポジア WEB サーバ費用	35,640		
仮払金　IROS 2017 Advanced Loan 他	1,980,220		
流動資産合計		221,901,268	
2　固定資産			
（1）　特定資産			
退職給付引当資産（普通預金）三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	11,125,213		
定期預金　三菱東京 UFJ 銀行本店	21,000,000		
特定資産合計	32,125,213		
（2）　その他固定資産			
電話加入権　2 本	153,100		
敷金　賃貸借契約敷金	63,000		
保証金　賃貸借契約保証金	2,500,000		
その他固定資産合計	2,716,100		
固定資産合計		34,841,313	
資産合計			256,742,581
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払金　印刷・封入・郵送費（日本ロボット学会誌 35-10）	1,487,465		
〃　コピー機使用料	153,156		
〃　人材派遣費 12 月分	193,094		
〃　交通費（事業計画委員会関係 他）	254,523		
〃　平成 29 年度 J-STAGE 投稿審査システム利用料	97,200		
〃　税理士顧問料他	138,466		
前受会費　会費前受分	23,432,000		
前受入会金　入会金前受分	11,000		
預り金　源泉所得税	119,036		
〃　住民税	57,400		
〃　社会保険料	581,990		
未払法人税等　平成 29 年分法人都民税	70,000		
流動負債合計		26,595,330	
2　固定負債			
退職給付引当金　退職給付分	11,125,213		
固定負債合計		11,125,213	
負債合計			37,720,543
正味財産			219,022,038

監　査　報　告

私たち監事は，平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日までの第七期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました．その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします．

1．監査の方法及びその内容

各監事は，理事及び使用人等と意思疎通を図り，情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに，理事会その他重要な会議に出席し，理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け，必要に応じて説明を求め，重要な決裁書類等を閲覧し，主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました．以上の方法に基づき，当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました．

さらに，会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い，当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む），正味財産増減計算書（内訳表を含む），財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました．

2．監査の結果

（1）　事業報告等の監査結果

一　事業報告及びその附属明細書は，法令及び定款に従い，法人の状況を正しく示しているものと認めます．

二　理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません．

（2）　財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は，法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます．

平成 30 年 2 月 15 日
一般社団法人日本ロボット学会

監　事　大隅　久 ㊞
監　事　髙西　淳夫 ㊞

公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告

私たち監事は，平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日までの第七期事業年度の公益目的支出計画実施報告書について監査いたしました．その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします．

1．監査の方法及びその内容

会計帳簿又はこれに関する資料，公益目的支出計画に関する資料の調査を行い，当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました．

2．監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は，法令等に従い，適切に作成されているものと認めます．

平成 30 年 2 月 15 日
一般社団法人日本ロボット学会

監　事　大隅　久 ㊞
監　事　髙西　淳夫 ㊞

【報告資料 1】

平成 30 年度　事業計画

（自　平成 30 年 1 月 1 日　至　平成 30 年 12 月 31 日）

Ⅰ．シンポジウム（継続事業 1）［担当：事業理事／学術講演会理事］

1．ロボット教育セミナー

ロボット教育セミナー「子供向けからくり教室（仮）」
期日：2018 年 7 or 8 月（予定）
オーガナイザ：古茂田和馬（東芝）

2．オープンフォーラム

第 36 回学術講演会（中部大学，2018 年 9 月 5 日～ 8 日）にて，オープンフォーラム（無料・一般公開）を企画予定.

3．インターナショナルロボットハイスクール IRH2018

2018 年 10 月に東京ビッグサイトにて，World Robot Submit プレ大会，Japan Robot Week 2018 とのコラボで，IRH2018 の実施を予定.

Ⅱ．学会誌（継続事業 2）［担当：学会誌理事］（定款第 4 条 2 号）

第 36 巻 1 号より 10 号を，1 月，3 月，4 月，5 月，6 月，7 月，9 月，10 月，11 月，12 月に刊行し，会員に配布する．各号の特集テーマは以下のものを予定している．

第 36 巻 1 号　サステナブルを目指すロボティクス（仮）
第 36 巻 2 号　ヒューマノイド・ロボティクス 2016 夏の学校（仮）
第 36 巻 3 号　超音波で「視る」「動かす」「治す」そして「触れる」（仮）
第 36 巻 4 号　マニピュレーションレビュー（仮）
第 36 巻 5 号　原子力発電所事故対応ロボットの現状 I（仮）
第 36 巻 6 号　原子力発電所事故対応ロボットの現状 II（仮）
第 36 巻 7 号　第 35 回学術講演会論文特集号
第 36 巻 8 号　開かれた知能（仮）
第 36 巻 9 号　テレイグジスタンス（仮）
第 36 巻 10 号　ソフトロボティクス（仮）

前年度に引き続き，魅力的な特集号の企画などについて取り組む．また，学術講演会論文特集号に加え，ロボット基礎レクチャーシリーズを企画する．一般記事に関しては，会議報告，コラム記事，工場訪問，研究者・開発者インタビュー記事などの掲載を継続して行う．論文投稿の減少改善策としては，2014 年 4 月から導入された新たな査読システムの改革が投稿数の増加，採択率の増加に貢献するかどうか，4 年経過した段階での中間評価・検討を行う．

また，二重投稿のルールの策定と，論文の種類のうち「研究速報」廃止，「レター」新設により，論文執筆者の立場から見た会誌に投稿するメリットや魅力を増強する．具体的には，著者の不安の解消を図るために整備・明確化した二重投稿のルールの周知と，新設したレターにより査読の迅速化を目指す.

広告に関しては，収入目標を 400 万円と設定し，特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた具体的取り組みを行う.

中期的ビジョンとしては，和文（論文）誌のあり方について，学会の発展・会員サービスの質の向上を優先して改善策を検討して行く．たとえば，ロボット関連の商業雑誌（ロボコンマガジンなど）との連携解説，インターネットメディア（例えば YouTube など）とリンクした解説，論文ダウンロード数の評価とフィードバック，教育論文，企業論文，解説論文，アイデア論文など，新しい領域を開拓，などを検討し，ロボット研究のすそ野を広げて行く．平易で可読性の高い論文や知的刺激に満ちた論文についても積極的に開拓する．一方，和文誌のあり方については，第 35 回日本ロボット学会学術講演会にて実施したオープンフォーラム『学術論文の査読の作法と，それを知ることでわかる論文の書き方～投稿論文掲載までの道～』において，日本ロボット学会における和文誌の方向性と位置付けや，和文誌投稿の査読プロセスと採択戦略論などが示されたので，周知実行についての具体的検討を実施する.

長期的ビジョンとしては，和文誌の投稿料の見直しやオープンジャーナル化など思い切った改革の可能性についてもあわせて議論を重ねる.

Ⅲ．欧文誌（継続事業 3）［担当：欧文誌理事］（定款第 4 条 2 号）

1．欧文誌（Advanced Robotics）の発行計画

下記のとおり，2018 年度においては Vol. 32 を年 24 号発行することを計画している.

Vol. No.	Month	Title
32/1, 2	Jan	New Horizons in Telerobotics for Leal-Life Application
32/3, 4	Feb	Morphological Computation in Soft Robotics
32/5, 6	Mar	Regular Issue
32/7, 8	Apr	New Hydraulic Components for Tough Robots
32/9, 10	May	Regular Issue
32/11, 12	Jun	Regular Issue
32/13, 14	Jul	Regular Issue
32/15, 16	Aug	Innovative Drone Technology
32/17, 18	Sep	Adaptive Motion of Animals and Machines
32/19, 20	Oct	Regular Issue
32/21, 22	Nov	Morphological Design for Haptic Interaction and Perception
32/23, 24	Dec	Regular Issue

2．編集体制

2018 年度は，細田耕編集長の下，シニアエディター 7 名および 9 名の欧文誌委員会メンバーを中心に，査読小委員会，国際編集委員，アドバイザリー委員会のメンバーの協力を得ながら，欧文誌 Advanced Robotics の国際的認知度向上，さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく.

3．欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2014 年度から年間 24 号としたことで，一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られているが，今後も採否決定までの期間 90 日を目標に出版を行っていく．一般論文の投稿数を見ながら積極的かつ戦略的な特集号企画を行い，国際的な認知度のさらなる向上，また引用の多い論文数件を Open Access 可能とする等を実施し掲載論文の質の向上を図り，昨年度上昇した Citation Index の評価（インパクトファクタ）の更なる向上を目指す．さらに，国際貢献の意味も含め，国内外からの投稿数をさらに増大させていくための施策として，投稿料無料を堅持する.

4．国際化に向けての活動

主要な国際会議 IROS にあわせて国際編集委員会を開催し，海外委員による特集号企画などを通して，国際的認知度を高める努力を行っていく．また国際貢献のために，ロボット学会の外国人会員の増加，日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく．また，国際委員会の活動に協力し，他学会との協力体制強化，パンフレットの国際会議場などでの配布，AR 宣伝のためのポスターの制作と配布，ウェブの英語コンテンツ充実，等を実施する.

Ⅳ．調査・研究（継続事業 4）［担当：企画理事］（定款第 4 条 3 号）

1．調査・研究専門委員会活動

以下の調査研究委員会，研究専門委員会による活動を行う.

（1）研究専門委員会

委員会名	委員長	発足	種別
遊びとロボット研究専門委員会	橋本秀紀	2017 年 4 月	I 種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017 年 4 月	I 種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017 年 4 月	I 種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017 年 4 月	II 種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014 年 9 月	I 種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	岡田浩之	2014 年 8 月	II 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	I 種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010 年 3 月	I 種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009 年 4 月	I 種
ヒューロビント研究専門委員会	槇田　諭	2009 年 4 月	I 種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	倉爪　亮	2008 年 4 月	I 種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野　敦	2008 年 4 月	I 種
空間知能化研究専門委員会（2018 年 1 月より「ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会」から変更）	新妻実保子	2007 年 1 月	II 種

（2）調査研究委員会

委員会名	委員長	発足
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見　卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	小平紀生	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	淺間　一	2013年1月

（3）技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

Ⅴ．表彰（継続事業5）［担当：企画理事］（定款第4条4号）

1．表彰

第36回学術講演会において学会誌論文賞，Advanced Robotics Best Paper Award，実用化技術賞，研究奨励賞，ロボティクスシンポジア研究奨励賞，功労賞およびロボット活用社会貢献賞の授賞を行う．また，本年度以降もFA財団の論文賞への候補論文の推薦，財団法人東レ科学振興会の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦を行う．学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる，その他の外部団体からの各賞の推薦依頼についても積極的に対応していく．

Ⅵ．国際（継続事業6）［担当：国際理事］（定款第4条5号）

1．学術講演会における国際セッション

第36回日本ロボット学会学術講演会（中部大学春日井キャンパス）において，OS国際セッションを組織する．発表者には，参加登録費を課すが，登壇資格は問わない．

2．国際交流活動

（1） ARSUサミット会議の継続的な参加（第13回）

（2） ARSUサミット会議へ未参加のアジア諸国の勧誘

（3） ARSUサミット会議の情報公開の推進

・ホームページの整備（特に各ソサエティの組織情報更新）

・議事録・各ソサイエティの資料公開

（4） ロボット教育プログラムの確立とその標準化

3．国際会議関連

本会にかかわる下記国際会議の共催／協賛，運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う．

・RO-MAN2018　日程：2018年8月27日～31日
　　会場：南京・泰安，中国

・IROS2018　日程：2018年10月1日～5日
　　会場：マドリード，スペイン

RO-MAN2018では学際的研究を対象とした賞（RSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Award）のスポンサー（KROSと共同）となる．

RO-MAN Steering Committeeには，国際担当理事，事務局長が参加する．

IROS Steering Committeeには，会長，国際担当理事，事務局長が参加する．

IROS2018ではBest Conference Paper Awardのスポンサーとなる．

IROS2018では，若手研究者向けのRSJ Tutorialを企画・実施する．また，企業（主に機器展示企業）と参加者のコラボレーションの機会のためのRSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration（RSJ-IAC Lunch）を企画・実施する．

4．その他

（1） 日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施

・対アジア外交における戦略の立案（協調と競争のバランス付け）

・IROS, RO-MAN等の国際会議での日本ロボット学会の広報

・英語による広報活動の展開（HP，パンフレット）

（2） 国際委員会の位置づけと活動の見直し

Ⅶ．学術講演会（その他事業1）［担当：学術講演会理事］（定款第4条1号）

1．学術講演会・シンポジウム等

（1） 第36回学術講演会

期　　日：2018年9月5日（水）～8日（土）
会　　場：中部大学（春日井キャンパス，愛知県春日井市）
実行委員長：大日方五郎（中部大学）
プログラム委員長：下田真吾（理化学研究所）

Ⅷ．講習会（その他事業2）［担当：事業理事］（定款第4条1号）

1．ロボット工学セミナー開講予定（タイトルはすべて仮）

（1） 第111回「産業応用に期待される人工知能技術を利用したロボットマニピュレーション」

期　　日：2018年4月（予定）
オーガナイザ：山田大輔（キヤノン）

（2） 第112回「ロボットのための画像処理技術」

期　　日：2018年5月（予定）
オーガナイザ：山内悠嗣（中部大学）

（3） 第113回「ロボットの作り方 ～移動ロボットの制御とROSによる動作計画実習～」

期　　日：2018年6月（予定）
オーガナイザ：阪東　茂（Doog），宮脇健三郎（大阪工業大学）

（4） 第114回「サステナブルな空の産業発展をめざして ～ドローンの運用とビジネス応用～」

期　　日：2018年6月（予定）
オーガナイザ：安孫子聡子（芝浦工業大学）

（5） 第115回「構成技術の変革から考える5年，10年後先のロボティクスの未来」

期　　日：2018年7月（予定）
オーガナイザ：梅舘拓也（東京大学）

（6） 第116回「人に優しいロボットを実現する技術 ～ Motion Control, Force Control, Real-Haptics ～」

期　　日：2018年9月（予定）
オーガナイザ：野崎貴裕（慶應義塾大学）

（7） 第117回ロボット工学セミナー「フィールドで活躍するロボット技術」

期　　日：2018年10月（予定）
オーガナイザ：小林亮介（日立製作所）

2．共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う．

国内共催事業（予定を含む）：

（1） 第23回ロボティクスシンポジア

期　　日：2018年3月14日（水）～15日（木）
会　　場：黒潮温泉　松風閣（静岡県焼津市）
実行委員長：相山康道（筑波大学）
プログラム委員長：長谷川忠大（芝浦工業大学）
現地実行委員長：伊藤友孝（静岡大学）

（2） ロボカップジャパンオープン2018

期　　日：未定
開　催　地：未定

（3） 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2018

期　　日：未定
開　催　地：未定

（4） 第18回レスキューロボットコンテスト

期　　日：未定
開　催　地：未定

Ⅸ．法人処理［担当：庶務理事］

1．第8回定時総会

会　　期：平成30年3月23日（予定）
会　　場：全水道会館（予定）

2．委員会活動

下記の委員会を開催する．

委員会名	委員長 (1 月～3 月)	委員長 (3 月～12 月予定)
会誌編集委員会	山下　淳	正宗　賢
欧文誌委員会	望山　洋	原田研介
事業計画委員会	山野辺夏樹	大原賢一
国際委員会	柴田智広	中臺一博
研究協議会	松日楽信人	松日楽信人
学術講演会実行委員会	松元明弘 (35 回)	大日方五郎 (36 回)
表彰委員会	浅田　稔	浅田　稔
学会誌論文賞選考小委員会	松日楽信人	松日楽信人
Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	松日楽信人	松日楽信人
実用化技術賞選考小委員会	浅田　稔	浅田　稔
功労賞選考小委員会	浅田　稔	浅田　稔
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	松日楽信人	松日楽信人
研究奨励賞選考小委員会	浅田　稔	浅田　稔
ロボティクスシンポジア研究奨励賞選考小委員会	浅田　稔	浅田　稔
外部表彰選考小委員会	松日楽信人	松日楽信人
体制整備委員会	澤　俊裕	澤　俊裕
アドバイザリーボード	澤　俊裕	澤　俊裕
コンプライアンス委員会	澤　俊裕	澤　俊裕
情報システム管理委員会	冨田浩治	原口林太郎
学術講演会管理委員会	松日楽信人	松日楽信人
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	嶋地直広	石橋一郎
学会価値委員会	浅田　稔	浅田　稔
IRH2018 実行委員会	松日楽信人	松日楽信人

3．役員の選出

平成 30 年度の理事・監事を選出する．

4．フェロー，名誉会員の選任

フェロー，名誉会員の推薦を行い選任する．

5．学会の基盤強化

新規委員会体制の下に，会員の拡大，論文発表の活性化をめざし，広報活動，産業貢献・異業種連携活動の強化，学会誌の充実を通して，学会の知名度向上をはかる．また，非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動，高齢者層会員，学生会員が会員継続したくなる価値の創出，若年層への啓発活動を継続実施する．

6．学会サービスの向上

学会価値委員会，ロボット研究開発アーカイブ実行委員会にて，学会ホームページのコンテンツの充実，情報サービスの拡大を進め，会員サービスの質の向上を図るとともに，学会の社会的価値の向上をはかる．

7．規約等の制定・整備

体制整備委員会，コンプライアンス委員会にて，学会運営の効率化・適正化，学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施していく．

8．将来検討

学会価値委員会等の活動により，本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む．

9．事務局運営

体制整備委員会の指導の下，中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する．

【報告資料 2】

平成 30 年度予算計画

収支予算書（損益ベース）平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日（公益事業）

科　目	実施事業等会計							
	継 1 シンポジウム	継 2 学会誌	継 3 欧文誌	継 4 調査･研究	継 5 表彰	継 6 国際	共通	小計 (A)
Ⅰ 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1)経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入会金								
学生会員受取入会金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	14,162,000	2,100,000	0	0	0	0	16,262,000
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演概要集販売事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		8,162,000						8,162,000
会誌広告料事業収益		4,000,000						4,000,000
会誌頒布事業収益		2,000,000						2,000,000
編集料事業収益			2,100,000					2,100,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金								
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								
雑収益								
経常収益計	0	14,162,000	2,100,000	0	0	0	0	16,262,000
(2)経常費用								
事業費	2,080,000	27,025,140	7,384,000	1,157,000	7,882,970	2,655,000	0	48,184,110
給料手当	0	5,219,390	0	0	4,019,970	0	0	9,239,360
臨時雇賃金	320,000	37,000	0	50,000				407,000
退職給付費用	0	447,950	0	0	316,200	0	0	764,150
福利厚生費	0	1,009,800	0	0	712,800	0	0	1,722,600
旅費交通費	47,000	353,000	2,000	10,000	213,000	750,000		1,375,000
通信運搬費	200,000	3,650,000	200,000	34,000	91,000	24,000		4,199,000
消耗什器備品費			119,000					119,000
消耗品費	280,000	19,000	26,000	16,000	338,000	12,000		691,000
印刷製本費	120,000	13,987,000		10,000	20,000			14,137,000
賃借料	338,000			99,000	24,000			461,000
諸謝金	340,000			680,000		500,000		1,520,000
租税公課		438,000	8,000					446,000
支払負担金	345,000		3,733,000	160,000	23,000			4,261,000
委託費	50,000	1,664,000	3,296,000		382,000	719,000		6,111,000
雑費	40,000	200,000		98,000	1,743,000	650,000		2,731,000
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								

会議費								
旅費交通費								
通信運搬費								
消耗什器備品費								
消耗品費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	2,080,000	27,025,140	7,384,000	1,157,000	7,882,970	2,655,000	0	48,184,110
評価損益等調整前当期経常増減額	−2,080,000	−12,863,140	−5,284,000	−1,157,000	−7,882,970	−2,655,000	0	−31,922,110
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	−2,080,000	−12,863,140	−5,284,000	−1,157,000	−7,882,970	−2,655,000	0	−31,922,110
2. 経常外増減の部								
(1)経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	2,080,000	12,863,140	5,284,000	1,157,000	7,882,970	2,655,000		31,922,110
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税								
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0

収支予算書（損益ベース）平成30年1月1日～平成30年12月31日（その他事業）

科目	その他会計				法人会計(C)	内部取引消去	合計(A)+(B)+(C)
	他1 学術講演会	他2 講習会	共通	小計(B)			
Ⅰ 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1)経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	2,000	0	2,000
特定資産受取利息					2,000		2,000
受取入会金	0	0	0	0	100,000	0	100,000
正会員受取入会金					100,000		100,000
学生会員受取入会金					0		0
受取会費	0	0	0	0	42,548,000	0	42,548,000
正会員受取会費					30,090,000		30,090,000
学生会員受取会費					3,978,000		3,978,000
賛助会員受取会費					8,480,000		8,480,000
事業収益	23,130,000	6,336,000	0	29,466,000	0	0	45,728,000
申込金事業収益							
参加費事業収益	16,000,000			16,000,000			16,000,000
懇親会参加費事業収益	2,780,000			2,780,000			2,780,000
展示料事業収益	4,000,000			4,000,000			4,000,000
講演概要集広告料事業収益	350,000			350,000			350,000
セミナー参加費事業収益		6,336,000		6,336,000			6,336,000
会誌掲載料事業収益							8,162,000
会誌広告料事業収益							4,000,000
会誌頒布事業収益							2,000,000
編集料事業収益							2,100,000
受取補助金等	1,400,000	0	0	1,400,000	0	0	1,400,000
受取国庫補助金	1,400,000			1,400,000			1,400,000
受取地方公共団体補助金							
受取地方公共団体助成金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	8,072,000	0	8,072,000
受取利息					12,000		12,000
雑収益					8,060,000		8,060,000
経常収益計	24,530,000	6,336,000	0	30,866,000	50,722,000	0	97,850,000
(2)経常費用							
事業費	13,489,430	4,842,000	0	18,331,430	0	0	66,515,540
給料手当	674,680	0	0	674,680	0	0	9,914,040
臨時雇賃金	1,500,000	200,000		1,700,000			2,107,000
退職給付費用	26,350	0	0	26,350	0	0	790,500
福利厚生費	59,400	0	0	59,400	0	0	1,782,000
旅費交通費	500,000	400,000		900,000			2,275,000
通信運搬費	100,000	102,000		202,000			4,401,000
消耗什器備品費							119,000
消耗品費	150,000	2,950,000		3,100,000			3,791,000
印刷製本費	3,500,000	60,000		3,560,000			17,697,000
賃借料	1,000,000	250,000		1,250,000			1,711,000
諸謝金	150,000	750,000		900,000			2,420,000
租税公課	364,000	62,000		426,000			872,000
支払負担金	4,000,000	24,000		4,024,000			8,285,000
委託費	1,450,000	16,000		1,466,000			7,577,000
雑費	15,000	28,000		43,000			2,774,000
管理費	0	0	0	0	30,790,560	0	30,790,560
給料手当					8,827,060		8,827,060
臨時雇賃金					3,001,000		3,001,000
退職給付費用					263,500		263,500
福利厚生費					1,094,000		1,094,000
会議費					161,000		161,000
旅費交通費					500,000		500,000
通信運搬費					1,198,000		1,198,000
消耗什器備品費					244,000		244,000
消耗品費					420,000		420,000
印刷製本費					696,000		696,000
光熱水料費					373,000		373,000
賃借料					7,089,000		7,089,000
保険料					6,000		6,000
支払手数料					603,000		603,000
諸会費					343,000		343,000
諸謝金					1,150,000		1,150,000
租税公課					52,000		52,000
委託費					2,590,000		2,590,000
雑費					2,180,000		2,180,000
経常費用計	13,489,430	4,842,000	0	18,331,430	30,790,560	0	97,306,100
評価損益等調整前当期経常増減額	11,040,570	1,494,000	0	12,534,570	19,931,440	0	543,900
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	11,040,570	1,494,000	0	12,534,570	19,931,440	0	543,900
2. 経常外増減の部							
(1)経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	−11,040,570	−1,494,000		−12,534,570	−19,387,540		0
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	543,900	0	543,900
法人税、住民税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	473,900	0	473,900

【第 3 号議案】

平成 30 年度役員の件

日本ロボット学会定款第 5 章，役員選任規程および役員候補推薦規程に従い，下表右列の 9 名を平成 30 年度新役員として推挙したい．

		平成 30 年度役員	
任期	平成 28 年 3 月～ 平成 30 年 3 月	平成 29 年 3 月～ 平成 31 年 3 月	平成 30 年 3 月～ 平成 32 年 3 月
理事		澤　俊裕	
理事		浅田　稔	
理事		松日楽信人	
理事		石橋一郎	
理事	嶋地直広	細田祐司	矢野　寛
理事	冨田浩治	原口林太郎	有坂寿洋
理事	曽根原光治	中嶋秀朗	菅原　淳
理事	山下　淳	正宗　賢	山本晃生
理事	望山　洋	原田研介	和田正義
理事	山野辺夏樹	大原賢一	辻　俊明
理事	松元明弘	大日方五郎	岩田浩康
理事	柴田智広	中臺一博	稲邑哲也
監事	大隅　久	高西淳夫	吉見　卓

【第 4 号議案】

名誉会員推挙の件

日本ロボット学会，名誉会員選任規程第 2 項（会長経験者，および，その他，ロボットの学術または技術に関する権威者で，かつ本会に対し功績顕著な者）に従い，下記の 3 名を新しく名誉会員として推挙したい．

内山　隆	1947 生	会員 #　506
金出武雄	1945 生	会員 #　292
原島文雄	1940 生	会員 # 2122

なお，これに伴い，日本ロボット学会名誉会員は下記 12 名となる．

花房秀郎	1923 生	会員 #　73
森　政弘	1927 生	会員 #　25
梅谷陽二	1932 生	会員 #　41
稲葉清右衛門	1925 生	会員 # 1070
有本　卓	1936 生	会員 # 1078
江尻正員	1937 生	会員 #　77
三浦宏文	1938 生	会員 # 1023
牧野　洋	1933 生	会員 #　43
吉川恒夫	1941 生	会員 #　311
内山　隆	1947 生	会員 #　506
金出武雄	1945 生	会員 #　292
原島文雄	1940 生	会員 # 2122